

八戸1月号 レポート

平成27年12月の八戸市内での出来事や、
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	更上周辺整備事業の設計イメージ公表 芝生広場や展望デッキも整備
2	市内4児童館 震度6以上で倒壊の恐れ
3	長根公園で、屋内スケート場 造成工事本格化

【産業】

No.	項目
4	キンキン 活魚で初めて1?の競り
5	八戸LNGターミナルに“たご焼き形運搬船”初入港

【地域】

No.	項目
6	八戸の夜景に新味 LNGタンクにライトアップ
7	民家に“かわいひん珍客” 白いスヌメが飛来
8	蕪嶋神社「年越感謝祭」 鮫町生活館で開催
9	種差小児童の絵 種差海岸のお菓子包装箱に
10	南極で熱々せんべい汁 八戸出身の観測隊員らが“汁” 直伝の味を披露へ
11	津波流失から5年 巖島神社鳥居の再建工事始まる
12	八戸仏教会事業「ツツタツツクス」 ～寺や斎場でも読書を～
13	種差小「環境美化教育優良校等表彰」で環境大臣賞受賞!
14	八学大、八学短大、八戸市 健康福祉分野で連携協力に関する協定を締結
15	水産科学館リニューアルに新たな円柱型水槽が目見え ～イワシ300匹くらくる～
16	蕪嶋神社 火災から54日 仮社務所・拝殿を開設し業務を再開


【文化・スポーツ】

No.	項目
17	汁 研、バラセミ 朝市で募金協力者にB級ケルメを振る舞う
18	是川純文館キャラクターの「いのるん」が“八郎丸”に1?
19	障がい者コンクール 書道部門で八戸の坂本さんが最高賞!
20	五輪銅メダリスト・岡崎朋美さんを招いてスケート教室開催
21	伊調整選手 全日本選手権優勝! リオネジャネイロ五輪出場も決定!
22	バントフーリング全国大会 柏崎小など八戸市の6団体が入賞
23	アイスホッケー女子U18世界選手権代表に、八戸レッズFW日向選手選出
24	「八戸アイスバーンスタ2016」開幕


【県内】

No.	項目
25	県緊急被ばく医療 八戸市立市民病院など「原子力災害拠点病院」に割当て
26	国勢調査速報値 青森県人口130万8649人で過去最大の4.7%減

【行政】

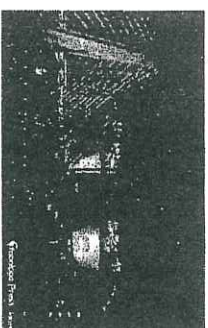
No.	レポート
1	<p>更上閣周辺整備事業の設計イメージ公表 芝生広場や展望デッキも整備</p> <p>八戸市は、長根公園と市中心市街地の中間に位置する更上閣周辺で進める「更上閣賑わい広場整備事業」の概要と実施設計に向けた設計イメージを公表した。現在使用を中止している更上閣別館と美術品収蔵庫の解体工事を本年度中に行い、2016～17年度に広場を整備する。「更上閣の歴史と風格を感じられる街かど広場」をコンセプトに、設計イメージでは、国の登録有形文化財に指定されている更上閣本館へ続く園路や休憩スペース、茶会やイベントステージとしても活用できる展望デッキなどを示している。</p>
2	<p>市内4児童館 震度6以上で倒壊の恐れ</p> <p>八戸市は、市内の15児童館のうち1981年の国の新耐震基準施行以前に建てられた7施設について2014～15年度に耐震診断を実施した結果、4施設が震度6強の地震で「倒壊する可能性が高い」と判定されたことを明らかにした。2016年度以降、4施設の建て替えまたは耐震補強工事を行う方針で、今後休館の必要性や代替施設などについて、利用児童の保護者や地域住民の意見を踏まえて検討する。</p>
3	<p>長根公園で、屋内スケート場 造成工事本格化</p> <p>長根公園で、屋内スケート場建設に向けた土地造成工事が本格化している。建設予定地となっている桜木町側の陸上競技場と多目的グラウンドでは12月21日、重機で盛り土を取り除く作業が盛んに行われていた。市屋内スケート場建設推進室は「建設に向けて着々と準備が進んでいる。実施設計もこれから仕上げるところで、コンセプトを大事にしつつ、費用とのバランスをとりながら進めたい」としている。市は、2019年中のスケート場完成を目指している。</p> 

【産業】

No.	レポート
4	<p>キンキン 活魚で初めて1?の競り</p> <p>八戸市第2魚市場で、生きたキンキン28匹(6.9キロ)が12月1日に取引された。競りの結果、1キロ高値7千円で、釣り物のキンキンとしては、平時より4割ほど高く取引された。梁場に生息する魚のため、販売時には死んでいるのが一般的で、ベテラン市場関係者も「活魚で競りしたのは初めてかも」と話している。鮮やかな朱色の魚が水槽を泳ぐ珍しい光景は、多くの買い受け人らの注目を集めた。</p>
5	<p>APL LNGターミナルに “たこ焼き形運搬船” 初入港</p> <p>八戸市豊洲のポートアイランドにある八戸LNGターミナルに、八戸港で過去最大となる総トン数約12万2千トンの運搬船が12月22日に到着した。球形のタンクが船上に飛び出している特徴的な船で、ロシアのサハリンから航海してきた全長約277メートル、幅約49メートルの「グラランピアニャ」。甲板に半球が並ぶ「モス型」は、過去に放映された八戸LNGターミナルを舞台にしたテレビCMで、出演した能年玲奈さんが「たこ焼きみたい」と表現して話題になった。海外からLNGを運ぶ大型船の入港は2015年で5隻目となる。</p> 

八戸の夜景に新味 LNGタンクにライトアップ

今年の八戸市景観賞を受賞した「八戸LNGターミナル」を運営するJX日鉱日石エネルギー・サービスは、12月1日に敷地内の大型タンク2基のライトアップを始めた。高さ約50メートル、直径約80メートルのタンクに塗装された、JX日鉱日石エネルギーのグラブマーク「エネオス」を発光ダイオード(LED)の灯火で照らす。15メートル四方と巨大で、どの方向からタンクを見てもマークが見えるよう計算して配置しており、夜の工場群でひととき存在感を放つ。照明は日没から日の出まで毎日点灯する。



民家に“かわいひん珍客” 白いスズメが飛来

八戸市江陽の木村心一さん方に、9月ごろから白いスズメが姿を見せている。「生まれ82年、見たことがない」という珍客。多い時は1日に5、6回ほど、他の茶色いスズメと一緒に飛来する。最初は頭と尾だけが白く、徐々に羽全体に広がっていった。日本野鳥の会青森県支部によると、「部分白化」という突然変異とみられる。愛らしい来客に、木村さんは「米粒をまくと寄ってくる。懐いてきたので愛着も湧いてきた」と顔をほころばせている。

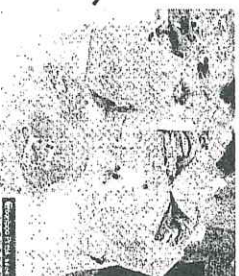


蕪嶋神社「年越感謝祭」 鮫町生活館で開催

火災で全焼した蕪嶋神社の例大祭「納め弁天年越感謝祭」が12月6日、同神社近くの鮫町生活館で行われた。感謝祭は、1296(永仁4)年の神社創建当時から続く恒例行事といわれる。火災で開催が危ぶまれたが、総代らの発案で同生活館を利用することにした。同生活館に設けられた祭壇には、火災で焼け残ったご神体がまつられた。野澤宮司が祝詞を読み上げ、地元の鮫神楽保存会が神楽を奉納した後、参列者一人一人が玉串をささげ、一日も早い神社再建と新年の無事を願った。

種差小児童の絵 種差海岸のお菓子包装箱に

種差小学校が2年がかりで取り組んでいるお土産作り「種差らしいお菓子づくりプロジェクト」で、お菓子を入れる箱が完成した。箱の側面には「大好き！たねさし」の文言とともに、ニッコウキスゲが咲く葎毛崎のほか、ウミネコ、海水浴の様子など、種差海岸をイメージして児童が描いた絵が3枚並ぶ。種差の魅力が詰まったお菓子を入れて新年1月以降、種差海岸イベントメニューセンターなど数カ所で販売する。



南極で熱々せんべい汁 八戸出身の観測隊員らが「汁研」直伝の味を披露へ

八戸市の誇るご当地グルメ・八戸せんべい汁が、南極で振る舞われることになった。12月に日本を出発した第57次南極観測隊に加わっている青森県出身の隊員や観測船「しらせ」に乗る海上自衛官が調理を担当し、昭和基地や船上で隊員に味わってもらう予定。南極観測に参加した経験を持つ県内関係者らでつくる南極OB会青森支部のメンバーが南極での「八戸せんべい汁会」開催を後押しし、また「八戸せんべい汁研究所(汁研=じるけん)」も全面協力している。関係者は「材料が運びやすく、食べると体が温まるせんべい汁は、まさに南極向けの食事。汁会開催を通じて県民にも南極観測への関心を持ってほしい」と話している。

	<p>津波流失から5年 厳島神社鳥居の再建工事始まる</p> <p>11 八戸市の大久喜漁港の厳島神社で、東日本大震災の津波で流失した鳥居の再建工事が、12月13日に始まった。米国オレゴン州に流れ着き、その後返還された一部を修復して活用。修復に当たったのは、1988年に、当時その鳥居を製作した洋野町の大工竹駒末太郎さん(71)。本体工事の開始に向け、11月から作業を進めてきた。約5年の月日を経て元の場所に戻った鳥居を前に、関係者は感無量の表情を浮かべた。</p>
	<p>八戸仏教会事業「フツダフツダ」 ～寺や斎場でも読書を～</p> <p>12 寺や葬儀場を訪れた市民に気軽に読書を楽しんでもらおうと、八戸市と階上町にある約50の寺院・葬儀場に本棚を置く事業「フツダフツダ」が始まった。八戸市が進める「本のまち」構想に呼応して、八戸仏教会が初めて企画。寺院や葬儀業者に簡易的な本棚を配布し、待合室や本堂の一角に設置。寺院などは各自が所有する本を並べて、訪れた人が自由に本を読むことができる場所をつくる。子ども向けの歴史マンガなど幅広いジャンルをそろえ、さまざまな世代が本に親しむことができる機会を提供したい考えである。</p>
	<p>種差小 「環境美化教育優良校等表彰」で環境大臣賞受賞！</p> <p>13 八戸市立種差小は、食品容器環境美化協会(東京)が主催する「環境美化教育優良校等表彰」で、最優秀校として環境大臣賞を受賞した。種差小は、ゼロの付く日にゴミ拾いをしながら登校する「0日活動」を続け、今年で25年目。2009年からは海岸沿いに繁殖する特定外来生物「オオハongoソウ」の駆除にも着手した。また2014年度から種差海岸をテーマにしたお菓子作りに挑戦するなど、地域の活性化に貢献したことも受賞につながった。</p>
	<p>八学大、八学短大、八戸市 健康福祉分野で連携協力に関する協定を締結</p> <p>14 八戸学院大と八戸学院短期大、八戸市は12月24日、健康福祉分野での連携協力に関する協定を締結した。介護職として就労を目指す無資格者や未経験者向けに、基礎的な知識や技能を身に付けられる無料の研修会を実施する。介護分野で慢性的に不足する人材の裾野拡大につなげたい考えである。</p>
	<p>水産科学館ワリエントに新たな円柱型水槽が目見え ～イワシ300匹くるくる～</p> <p>15 八戸市水産科学館ワリエントが新たに設置した円柱型の回遊水槽で、約300匹のイワシの群れが生きて泳いでいる。イワシは八戸を代表する魚だが、これまでの設備では生息が難しく、同館で初めて本格的な展示となる。高さ200センチ、直径120センチの水槽は昨年12月はじめに導入。水流を起こす仕組みとなっており、一定方向に群れをなして泳ぐイワシたちの銀色のうろこが、照明を浴びてキラキラと輝きを放っている。同館では当面、展示予定だが、狭い水槽での長期飼育は難しいとして、早めの来館を呼び掛けている。</p>
	<p>蕪嶋神社 火災から54日 仮社務所・拝殿を開設し業務を再開</p> <p>16 蕪嶋神社は12月29日、火災で焼失した社殿再建までの間使用する仮設の社務所と拝殿を蕪嶋近くに開設した。お守りやお札の販売所もオープンし、11月5日の火災から54日、ようやく同神社の業務が再開した。仮社務所・拝殿は蕪嶋から南東約100メートルの私有地に設置。プレハブの建物で、社務所と拝殿を合わせた広さは約100平方メートル。開設時間は午前9時から午後5時まで。</p>

No.

レポート

汁研、バラゼミ 朝市で募金協力者にB級グルメを振る舞う

17
 火災で社殿を焼失した燕嶋神社の再建に向け、十和田バラ焼きゼミナールと八戸せんべい汁研究所が、12月13日に館鼻岸壁で開かれた朝市で活動。募金に協力した来場者に、十和田バラ焼き350食と、せんぼせんべい500枚を振る舞った。バラゼミは300円以上の寄付にバラ焼きを提供。汁研は100円以上でせんぼせんべいのほか、手焼き体験も楽しんでもらった。集まった募金は、朝市の主催者である湊日曜朝市会を通じて神社再建実行委員会等に寄付された。

是川縄文館キャラクターの「いのるん」が「八郎丸」に1?

18
 八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」に、ラグビーのユニホームを着た同館公式マスコットキャラクター「いのるん」の置物がお目見えした。「いのるん」は、同館に収蔵展示されている国宝・合掌土偶がモチーフ。合掌土偶の両手を合わせた姿が、ラグビー日本代表・五郎丸選手がキックを蹴る前のポーズに似ていることから、同館スタッフが「八郎丸」と命名し制作した。ユニホームは是川遺跡から出土した漆製品の色から赤と黒の横じまで「顔はリーチ・スイケル日本代表主将似」と古館光治館長。同館1階受付にちよこんと座って来館者を迎えている。

障がい者コンクール 書道部門で八戸の坂本さんが最高賞!

19
 障がい者の作品を国内外から募集するコンクール「ビッグ・アイ・アートプロジェクト」の書道部門で、八戸市類家のボランティア書道教室「俊文書道会」の会員坂本恵人さん(24)が、最高賞の「望月虚舟賞」に輝いた。コンクールは、障がい者が制作したアート作品を広く募集するプロジェクト。今回は日本のほか、アメリカやスペイン、韓国などから計1514点の応募があった。入賞と佳作を含め、今回は同会から会員計7人が受賞し、喜びに沸いている。

五輪銅メタリスト・岡崎朋美さんを招いてスケート教室開催

20
 1998年長野五輪女子スピードスケート500メートルで銅メダルに輝いた岡崎朋美さんを特別コーチに招いたスケート教室が、12月20日に長根公園スケートリンクで開催された。教室は、スピードスケート競技人口の増加と競技力向上を狙い、市が本年度始めた「氷都八戸パウアツプロジェクト」の一環として初めて開催。基礎と中上級の2コースに分かれて実施した。快晴の下、小学生約180人が、氷上を滑る楽しさや技術を学んだ。

伊調整選手 全日本選手権優勝! リオデジャネイロ五輪出場も決定!

21
 2016年のリオデジャネイロ五輪代表選考会を兼ねたリスリンクの全日本選手権が、東京・代々木競技場第二体育館で行われ、9月の世界選手権で優勝した女子58キロ級の伊調整(八戸市出身、ALSOK)が通算12度目の日本一に輝き、自身4度目の五輪出場も決めた。試合後の会見では、リオ五輪で優勝すれば女子で史上初の五輪4連覇となることに触れ「たくさんの人に期待されている。内容を充実させるとともに、ぜひ実現したい」と意欲を見せた。

バトントレーミング全国大会 柏崎小など八戸市の6団体が入賞

22
 12月12日、13日に千葉県幕張メッセで開かれた「第43回バトントレーミング全国大会」で、八戸市の小学校や高校、クラブチーム6団体が入賞した。小学校の部は2団体が出場。バトン編成で柏崎小バトントレーミング部は創部以来初の金賞を受賞し、またポンポン編成で根城小バトン部は銀賞を受賞し、最優秀賞に輝いた。高校の部も2団体が出場し、バトン編成の向陵高バトン部、ポンポン編成の千葉高バトン部がいずれも銀賞。一般U-12の部バトン編成では、全国から強豪23チームが出場する中、バトンチームAriesジュニアは9位になり、優秀賞を受賞した。一般OPENの部バトン編成では、「バトンチームAries」が全17チーム中8位になり、入賞を果たした。選手たちは喜びに沸くとともに、さらなる成長を誓っている。

23	<p>アイスホッケー女子U18世界選手権代表に、八戸レッツスFW日向選手選出</p> <p>アイスホッケー女子U18世界選手権デビスジョンI（1月10～16日・ハンガリー）に出場する日本代表メンバーに、八戸市の女子チーム、八戸レッズでプレーするFW日向蘭選手（八戸商高1年）が選ばれた。2年連続の選出で、「前回の経験を生かし、チームの昇格のために貢献したい」と意気込んでいる。同選手権には日本のほか、ソルウェー、スロバキア、ドイツ、ハンガリー、デンマークが出場。総当たり戦で争い、優勝チームがトップデビスジョンに昇格する。代表選手は国内外でプレーする14～17歳の20人。</p> <p>「八戸スィヤバーستا2016」開幕</p>
24	<p>八戸港に水揚げされた魚介類を使ったスープレ料理を味わえる「八戸スィヤバースタ2016」が、今年2月1日から3月31日まで、八戸市内のレストラソヤホテルで開催される。2012年のスタートから5年目を迎え、恒例の「八戸の冬の祭り」として定着。店ごとに内容が異なる、スープレを生かした締め料理も楽しめる。1皿で終わらない、「2度おいしい」のが「八戸流」。新規1店を含めて過去最多の15店が2カ月間、地魚のおいしさを堪能できる15色の料理を提供する。</p>

【県内】

No.	レポート
25	<p>県緊急被ばく医療 八戸市立市民病院など「原子力災害拠点病院」に割当て</p> <p>青森県は12月21日、青森市で第2回県緊急被ばく医療対策専門部会を開き、5年ぶりとなる県緊急被ばく医療マニュアルの改正案を示した。国の原子力災害対策指針を受けて県内の医療体制を見直し、被ばく医療の最前線を担う「原子力災害拠点病院」に八戸市立市民病院と県立中央病院、放射性物質の汚染測定など支援業務を中心とする「原子力災害医療協働機関」には、むつ総合病院など15機関を割り当てた。県は1月までに指定・登録を終え、2月のマニュアル改正を目指す。</p>
26	<p>国勢調査速報値 青森県人口130万8649人で過去最大の4.7%減</p> <p>国勢調査（2015年10月1日現在）の速報値によると、青森県内の人口は130万8649人で、前回調査の確定値に比べて6万4690人減少、減少率は1920年の調査開始以来、過去最大の4.7%となった。これまで増え続けてきた県内の世帯数も今回初めて減少に転じた。県は2014年度から県基本計画「未来を变える挑戦」で、雇用確保や子育て支援など人口減少対策に取り組んでいるが、現時点で成果が表れていないのが現状である。</p>